



今、始まる！ 映像から感動を！

センター誕生祭『タイムスリップ！にいがた』を開催 ～映像で訪ねる ふるさと 新潟県～

“懐かしさ”は“新しさ”へ…

新潟県立生涯学習推進センターは、平成4年8月7日にオープンしました。その誕生を記念して、貴重な映像（16ミリフィルム）を広く県民に公開する目的で、8月5日（土）午後1時30分から『タイムスリップ！にいがた』を開催しました。

新潟市以外からの参加もあり、約100名がフィルムの流れる音とともに懐かしい映像を楽しみました。今回（第1回）は「映像から感動を…懐かしさは新しさへ…」 「ふるさとにいがた再発見」をテーマに、3本のフィルムを上映しました。

8月7日から始まる新潟まつりの直前ということで、まず、昭和29年制作の「新潟まつり～夏の祭典～」を、続いて県内13か所の行事と祭りを取り上げた昭和41年制作の「新潟歳時記」を上映し、県民が一丸となって強い新潟をつくるという気風の中で進められた昭和39年制作の「若い血と炎～第19回国民体育大会記録／新潟国体～」の映像で最後を締めくくりました。

今回の映像が、“ふるさとにいがた”の素晴らしさを再発見したり、家族の絆や地域のコミュニティーを見直したりする話題の一つとなり、3年後の第64回新潟国体への取組や県のスポーツ文化の発展の一助になればと願っています。

第2回目を、次年度の同時期（8月上旬）に、日数や内容を検討して開催する予定です。

上映会終了後、参加者から「とても懐かしい。こんな時代があつて今があることに感謝したい。」「災害がなければ世界一の桜並木があつたのに。孫に見せてやりたかった。」「天皇杯と皇后杯の両杯を受けた新潟県民のパワーはすごい。」「当時の行事と祭りから、隣同士、地域内の絆を強く感じた。」などの声（感想）が多く寄せられました。



映像は語る『タイムスリップ！にいがた』

～ 冬 編 ～

12月2日(土)10:30～12:00決定！

全国トップの保有数・利用状況

参考までに当センター及び県内12ライブラリーの教材数・利用人数は以下のとおりです。

◆当センターの状況と保有教材(H18.5.1現在)

- ・16ミリフィルム教材 : 1,840本
- ・ビデオ教材 : 1,207本
- ・DVD教材 : 32枚

◆県内視聴覚教材の保有と利用状況(H17年度)

- ・視聴覚教材利用登録団体 : 3,858団体
- ・16ミリフィルム教材保有数 : 9,353本
- ・ビデオ教材保有数 : 14,351本
- ・16ミリフィルム教材利用人数 : 4,814人
- ・ビデオ教材利用人数 : 21,862人



*当センターの視聴覚教材は、ラ・ラ・ネット（新潟県生涯学習情報提供システム）で検索ができます。

<http://www.lalanet.gr.jp/>

※携帯電話でも「学習機会」と「県民カレッジ」の検索ができます。

ラ・ラ・ネット携帯サイト

<http://www.lalanet.gr.jp/m>



第1回 家庭教育支援事業の企画力向上セミナー

子どもの力を借りて地域をつくる、市民と行政の協働による家庭教育・子育て支援アイデア会議

6月7日(水)～8日(金)の2日間、当センターを会場として開催しました。家庭・地域の教育力を向上させるために、県教育委員会が平成16年度から進めている「社会全体で子どもをはぐくむ運動」の全県的な展開を支援するために、主に市町村の行政職員を対象にした事業です。

1日目は、茨城大学助教授長谷川幸介氏による講演「子育てを中心にした地域づくり」に始まり、「五泉市教育委員会生涯学習課」と「しばた父ちゃん子育て協力の会」の事例発表後に、グループに分かれて地域の家庭教育の課題を出し合い、それをもとに話し合いました。

長谷川講師は講義で、「私たちは地域を先祖ではなく子孫から預かっている。あと10年後20年後に生まれて、ここで暮らす子孫に、きちんとこの地域を渡していけるかどうか問われている。だから、家庭教育・子育てを担当する者として企画を立てるといことは、かけがえのない地域の伝統・文化・人々の想いを子どもたちと一緒に守り、つくっていくのだという覚悟が必要です。」と話されました。

(長谷川講師の講義記録は、当センターのホームページを御覧ください。)



8日は、「家庭教育支援アイデア会議」を行いました。講師として東京都世田谷区から、「毎日の生活研究所」代表の矢郷恵子氏を迎え、より効率的な会議の進め方を学びました。手法としてファシリテーショングラフィック(FG)を参加者が交代で体験しました。

FGは、話の内容を模造紙にカラーペンで記録していくもので、特に多様な立場の参加者が多い会合には有効です。自分の意見・発言が全体の中でどのような位置付けかを確認できるので、話し合いの進行が共有でき、話の中心をねらいからそらさないで進めることができます。また、みんなの視線が模造紙に集中することで気持ちがひとつになり、全体を一体化させる効果が生まれます。

研修の参加者からは、職場の会議に活用してみたいという感想が多く寄せられました。

授 業 事 業 で メディアを活用する実践研修 (教育メディア研修概論・演習)



●概論(講義)と演習(実技研修)の研修構成

●概論は8月4日に開催

演習は8月～10月に6回実施

当センターでは、視聴覚機器や情報機器を必要に応じて適切に活用できることを目指して研修会を毎年実施しています。

今年の演習には、「中級」コースを新しく設定しました。そこでは、教育メディアを、学校の授業改善や、公民館・視聴覚ライブラリーの事業運営に役立てようと、受講生の要望に応じたより実践的な研修に取り組んでおります。

「中級」の第2回は、9月19日(月)、25日(月)の2日間で行います。メディア教育に関心のある方は、ぜひ当センターにお申し込みください。



【演習「中級コース」受講生のテーマ例】

<第1回「中級」コース(8・9月)受講者の声>

- ・学校のホームページを更新するにあたり、センターの研修を受講して、HP作成のための知識・技能の向上を図りたい。さらに、校内研修を企画し、そこにセンター職員を招いて、全職員のICT活用のスキルアップをねらいたい。
- ・調べる手段としてだけのコンピュータ活用ではなく、学習指導の教材として自作教材をとり入れたコンピュータの活用を工夫したい。
- ・センターの研修「初級」コースのビデオ教材作成講座のステップアップとして、高校の総合学科の工業科向けの教材を作成したい。
- ・メディア研修会の「初級」でノンリニアビデオ編集の技術等を学んだので、それを生かして事業に役立つシステム作成に着手したい。

学校や生涯学習施設の課題解決に向かって、受講者の声を尊重し、来年度も要望に応じた教育メディア研修を実施していきます。御期待ください。

第1回 地域・家庭・学校・行政を結ぶ人づくり・まちづくり研修会



6月15日(木)、当センター大研修室にて「生涯学習による人づくり・まちづくりを進める仕組みづくり」をテーマに研修会を実施しました。

「地域の特性を生かし、地域・家庭・学校・行政を結んだ生涯学習による人づくり・地域づくりを進める仕組みづくり等に関する実践的な研修を通して、企画力・運営力の向上を図る。」ため、昨年度実施した「学校と地域を結ぶコーディネーター養成研修会」を発展させて、仕組みづくりを考える研修会としました。

参加者は、県内各市町村の生涯学習・社会教育担当職員をはじめ、学校職員、PTA役員、地域でボランティア活動をされている方々など約40名でした。

講師は、長年、県内外で地域づくりに関わっている、えにし屋主宰清水義晴氏にお願いしました。特に、ファシリテーショングラフィックなどのワークショップ技法を巧みに活用した参加型演習では、参加者の活発な意見交換が行われるなど、大いに盛り上がった研修となりました。

「実のある話し合いをするというのが、こんなに充実感や達成感のあることとは思いませんでした。大変感動しました。」「参加して大変よかったです。次も絶対参加します。地域の役員として、学校の職員として“つなが”ことから始めていきたいと思います。いつか花が咲くといいな。」等の感想を参加者からいただきました。

今回は、11月16日(木)に「これからの人づくり・まちづくりを推進する方策を考えよう」のテーマのもと、清水義晴氏を講師に事例発表と演習(ワークショップ)を実施する予定です。大勢の皆様の参加をお待ちしています。

第3回研修会の予定

11月16日(木) 10:00~16:00

広域遠隔学習推進事業

にいがた連携公開講座2006(第4回)

にいがた連携公開講座は当センターなどを会場に、市町村及び大学等と連携し、テレビ会議システムを活用して、講演を複数会場に送信して行う講座です。第4回講座は7月30日(日)十日町情報館を主会場、県立生涯学習推進センターを受信会場にして、県立新潟女子短期大学の岩佐久美子氏を講師に迎えて実施しました。テーマは「子どもが本とであうとき～生きる喜びを手渡すおとなの役割～」という青少年の読書活動に関するものでした。脇明子さんの「読む力は生きる力」と日本小児科医会の「子どもとメディア」の提言を軸に、今を生きる子どもたちの問題全体の中で子どもの読書を考えることの大切さを、話されました。

「読書については、文字が読めれば本が読めるという単純な考え方をする大人が多い。本を読むには、目に見えないものを見えるようにする想像力を育てなくてはならない。生きるために大切なことを伝えるには一冊の本を中心にして大人が読んでみんなで聞く。それも心を動かして聞く。読み手も聞き手もそ

した感情の体験をしながら楽しむ。その中で親と子、人と人の信頼関係が育ち、子どもは安心して生きていける。だから大人は子どもの本を選ぶとき、自分の感性だけでなく、子どもにとってよい本とはと考えて選ぶ目を鍛えることが大切だ。」と読書についてまとめています。

絵本の魅力を中心にしながら、子どもの読書のあり方について分かり易く話されました。

各会場の参加者にとって、映像では得られない絵本の魅力とその世界について、認識を新たにすることができました。



今後の生涯学習の在り方について「審議のまとめ」を作成



新潟県生涯学習審議会では、「今後の新潟県の生涯学習の在り方について」をテーマに審議を重ねてきました。このたび審議内容を取りまとめ、「審議のまとめ」として作成しました。生涯学習を推進していく上でのひとつの指針として活用されることを期待するものです。

【審議のまとめ】骨子

第Ⅰ章 本県の生涯学習振興の経緯と新たな課題

1 生涯学習振興の経緯

- (1) 「新潟県生涯学習推進プラン」の策定
- (2) 生涯学習フェスティバルの開催
- (3) 生涯学習環境の整備に関する県の取組
- (4) 市町村における生涯学習推進の取組

2 社会の変化に伴う新たな課題

- (1) 住民が主体的に参画する生涯学習推進の在り方
- (2) NPOなど民間の関連団体等との協働の在り方
- (3) ITを活用した学習環境の整備
- (4) 持続可能な未来に向けての学習の充実

第Ⅱ章 審議のまとめ

1 住民が主体的に参画する生涯学習推進の在り方

- (1) 学習成果の評価と活用

- (2) 社会教育関係団体の活性化を図るための連携
- (3) 大学等の教育機関との連携
- (4) 人材育成と活動拠点「場」の整備
- (5) 魅力ある事業の創出とバリアフリーの実現

2 NPOなど民間の生涯学習関連団体等との協働の在り方

- (1) 民間活動諸団体との協働の在り方
- (2) 企業や団体等との協力
- (3) 民間の教育事業者や大学との連携・協力
- (4) 需要と供給とのコーディネート機能の充実

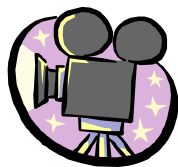
3 ITを活用した学習環境の整備

- (1) e-ラーニング等による学習機会の充実
- (2) 情報リテラシーを身につける学習機会の充実
- (3) 人材の育成と活用
- (4) 情報化社会のマイナス面に対する対応

4 持続可能な未来に向けての学習の充実

- (1) 環境に配慮したライフスタイルの推進
- (2) 多様な学習資源を活用した効果的な学習機会の提供
- (3) 学校教育を核とした総合的・体系的な学習の推進
- (4) 実践活動の継続
- (5) 人材の育成と学習拠点の整備

※詳細は生涯学習推進課HP参照<http://www.pref.niigata.jp/kyoiku/syogaigakushu/syogaku/>



“感動”から“笑顔”へ 映画・ビデオ鑑賞会のお知らせ

- 9月24日(日) 13:30~14:45
 - ① 「楽しく学ぼう! 基本的生活習慣」
平成18年度自作視聴覚教材コンクール
最優秀作品
 - ② 「裁判員制度」一もしもあなたが選ばれたら—
監督・出演: 中村雅俊、出演: 西村雅彦
- 10月22日(日) 13:30~15:30
 - ① 「泥棒と殿様」 原作: 山本周五郎
出演: 橋爪 淳、火野 正平
 - ② 「チャップリンのキッド」
幻の3分間を含む完全版 1921年制作
- ◆ 入場無料、申込不要、先着順(186席)
- ◆ 会場: 県立生涯学習推進センター・ホール
- ◆ 運営: 映画ボランティアの会
- ◆ 駐車: 鳥屋野潟公園の駐車場

お知らせ

青少年指導者グループワーク研修 「気付きと関わりを学ぶ」

日時: 平成18年11月3日(金)~5日(日)
場所: 県立青少年研修センター
新潟市越前浜5597-1
内容: グループワークトレーニングの理論と実践をとおして、グループワークの理解を深めるとともに、青少年指導者としての資質や指導力の向上を図る。
講師: 青山学院大学文学部教育学科教授
樋田 大二郎氏
定員: 50人
対象: 青少年指導者、教員、学生等
費用: 3500円
申込締切: 10月21日(土)
問い合わせ: 県立青少年研修センター研修課
TEL 0256-77-2111

“さわやか”メール

青少年をめぐって、最近、気になっていること。まず、文科省『心のノート』の「自分の心に向き合い、本当の私に出会いましょう」の表現に見られるように、個性や自分らしさはもともと備わっているという「オンリーワン幻想」。そして、さまざまことを許容しない、システム化された社会構造の息苦しさ。個性は「生かすもの」ではなく「育み、伸ばすもの」。若者は「迷って成長するもの」ではないでしょうか。「人や自然やものとたっぷりかかわりながら、自分らしさはだんだん育っていくんだよ!」「うんと迷い、つまづき、さまよっていいんだよ。そうやって一步一步確実に歩いているんだよ!」

新潟県立生涯学習推進センター 新潟市女池南3-1-2 TEL:025-284-6110 FAX:025-284-6019
(URL)<http://www.lalanet.gr.jp/> (e-mail) nlpc@mail.lalanet.gr.jp